



発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



高松院様が寄進された梵鐘
背後には、その後建立された御影堂の姿をのぞむ

妙考院鶴姫様
みようこういんつるひめさま

常磐井 和子

専修寺の朝は、夏には蝉時雨、冬には静かに積もる雪の中を、颯々と響く梵鐘の音で明けてゆきます。専修寺十五世堯朝上人の菩提を弔って、お裏方高松院様が寄進されてから三百五十年、一日も欠かすことなく「正覚大音響流十方」の法音を伝えていきます。今は概ね静かな境内と伽藍のたたずまいですが、この寺域が整うまでにはいくつかが、身命を賭した貢献が繰り返されて来ました。

堯朝上人にとっては伯母にあたる、十三世堯真上人の御長女は鶴姫様と申し上げました。太閤秀吉に仕えて、その居城伏見城にお住いだつた時、あの伏見の大地震が起きました。そしてこの災害で鶴姫様は尊い命を失われたのでした。伝説によれば、その日鶴姫様の父堯真上人は、奇しくも城中に居合

伏見城図（洛中洛外図屏風 池田家本）



わせられ、姫の最期を目前にされたと申します。

秀吉も哀惜の思い抑えがたく、寺院を建立し姫の法名によって寺号とし、厚く弔いました。今も京都市伏見区にある、別格のお寺、榮真寺がそれです。

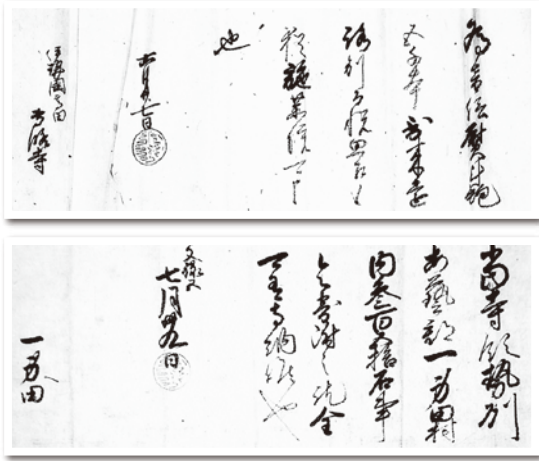
実はこの地震に先立つこと十日余りの文禄五年（＝慶長元年）七月二十九日付けで、秀吉は一身田宛てに、三百五十石を寄進するむねの朱印状を出しています。これを鶴姫を悼んでの香華料の意味とするむきもありますが、地



御影堂落慶大法会

平成22年5月13日～17日





震の日、すなわち鶴姫様の命日は、それより後の閏七月十二日です。しかし、これが香華料でないことはたしかです。あいにくこの年は閏月の七月もあつたゆえの誤解でしょう。又この朱印状の宛名が、ただ「一身田」とのみあるのは異例のようです。(左図下の一通) 専修寺に宛てたものなら、「伊勢国高田専修寺」又は「高田専修寺堯真僧正御坊」などであるのが普通でしょう。そこで私は、秀吉の寄進は鶴姫への愛顧のしるしとして、その生前に贈与されたものであると考えます。一身田という曖昧な宛名は、それが当面の宛て先が女性だったからと考えられないでしょうか。

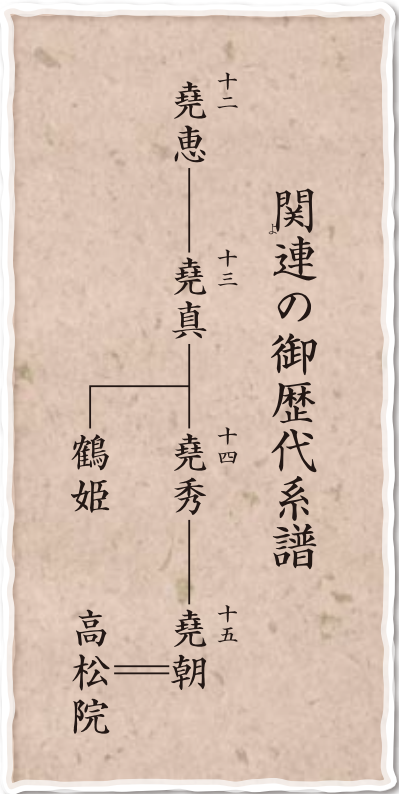
さて次に、伝説にいう、堯真人が大地震の際、城内に居合わせたといい、余りに出来すぎた偶然はいかがでしょう。これは事実上は専修寺が拝領した、三百五十石に対する御礼言上のためだった、と考えられると思います。日数の経過の点でも妥当です。いかに専修寺門跡の堯真人でも、伏見城に登って天下人太閤秀吉に対顔することは、滅多に許されないのではないかと思いますが、こういう目的であれば当然で、実現も可能でしょう。

鶴姫様の急逝は、不運なご生涯として語り伝えられて来ているが、宗門にとつてこの方の功績はまことに大きいものがあつたようです。本山の「御堂日録」によりますと、毎年鶴姫様の祥月命日には、如来堂で、鄭重な勤行が勤まっています。記録を辿れる最後は、何と逝去後二百年、十八世円尊上人の代に及んでいます。これは他所へ嫁された門室の姫君の待遇としては、前後にも例のないことと思われまゝ。又本山の御廟の北に接した門室の墓所では、そのほぼ中央、御開山聖人の御廟の真裏に、「妙孝院殿榮真大信女」と記



飛鳥井家の図 (洛中洛外図屏風 上杉家本)

したお墓がひそやかに立っています。和歌と蹴鞠を家の業とする八公家、飛鳥井家の血を引く姫君が、その素養で太閤秀吉の心を動かしたのでしょうか。おそらく鶴姫宛てと思われる朱印状が、その後長くこの宗門を支える経済的基盤だったのでしようか。みずからははかな



世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

絵所頭 御本山絵所 安川如風

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所
〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

太鼓門修復



御影堂の修復も完成し、来年五月の慶讃法会を待つばかりの本山境内ですが、今年も唐門と太鼓門という、三重県と津市の文化財に指定されている二つの門の修理が始まっています。これらの門は天明三年（一七八三）の境内大火の際に、両御堂以外のすべて



修復前の太鼓門

（享保十四年（一七二九）に尾張の御同行が寄進した太鼓

の建物を焼亡してしまつた時以前には、今とは異なつた姿が絵図に記録されています。特に東の太鼓門は、絵図には「鼓樓門」という名前がしるされ、今の三層の外観とはかなり異なつて、切妻の屋根で二層の建物として描かれています。

詳しく記録されていますが、これは、太鼓の吊り金具の前後に「享保十四歳」と大書されているように、この年に尾張の御同行衆が寄進し、これ以降、幾度かの張り替えの費用も尾張の人々が負担したことが知られています。長年、太鼓門の中に放置されていたため、今は皮が破れて胴の合わせ目も口を開けている状態です。今回の太鼓門修復と同時に、太鼓のほうも往年の姿に復元されることを大いに期待したいものです。

（宝物館主幹 新光晴）

写真はその当初の樓門に設置されていた大きな太鼓の胴で、今回の修理で久々に降ろされて宝物館に収蔵されています。太鼓の胴中央の直径は一メートル近くもあるため、三層の建物に改築されてからは、大きすぎて最上階に収まらないので取り外されたままになっていました。



《江戸時代の絵図》「鼓樓門」と称されていた頃の太鼓門。当初は長屋門の上層に太鼓櫓を増築して二層の樓門風に仕立てていた。

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
〒600-8503

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

リレー法話

むなしくすぐる

ひとぞなき

浦井 宗司

風の盆

蝉の音が聞える季節になると、ふと、十年ほど前に有縁の方々同伴で訪れた富山・八尾町の「風の盆」を思い出します。

静かな踊りと哀愁漂う胡弓の音が、独特の雰囲気醸し出して、身も心も浸して言いようのない感動を憶えたことでした。音曲に乗って流れる歌詞も絶品です。

浮いたか瓢箪
かるそに流るる
行先ア知らねど
あの身になりたや

土地柄でしょうか、お念仏の香りが随所に散りばめられています。私たちは日頃、オレがオレがと気張っています。が、「いただいた人生、水面に浮かぶ瓢箪のように流れにまかせ、身の丈に合った生き方でいいじゃないか」と。しかしなかなかその思いが捨てられん。こういう空気が伝わってきます。

娑婆に出た甲斐がない

大方が男女の恋歌ですが、特に注目するのは、唄に「娑婆に出た甲斐がない」という文言が、何度か出てくることです。

三千世界の 松の木ア
枯れても
あんたと添わなきや
娑婆に出た甲斐がない

これは「せっかく阿弥陀さまに命をいただいてこの娑婆に出していただいたのだ。それを果たさなきゃならん」こういう宗教的な思いを背景にして生まれた唄でしょう。ちなみに「三千世界」は仏の世界を示す言葉です。

空過と勝過

親鸞聖人はご和讃に
本願力にあひぬれば
むなしくすぐるひとぞなき

と述べておられます。この「むなしくすぐる」という言葉に漢字を加えれば「空しく過ぐる」です。生きていることがまったく空しい。虚しい日々を送っていると一言言葉です。

ところが、私たちは日々の暮らしを空しいと思うことはあまりありませんね。充実しているとも言いますが、ま

あ、こんなものだろうと、腹を収めているということではないですか。

実際は、出来るだけ空しいと思わないようにフリしているだけなのかもしれませんね。

私は、このご和讃を拝読いたしますと、「これは、佛のご本願を知らせるお言葉ではなくて、人間存在の空しさ・悲しさを知らしめるお言葉である」といた

だくのです。仏さまの眼から見れば、私たちが空しいのは、思い通りにならないからです。計らったような現実には成らないから

です。ということとは、私自身が生み出した空しさなのです。私の思いが作り出した空しさということを知れば、空しいということにはならない。そうならば空しいという言葉すら必要ありません。そのことを『無量寿経』には「勝過」(勝れて過ぐる)と教えています。空過に対して勝過、裏表の関係です。空しさが、眼を見開いてみれば、そのまま

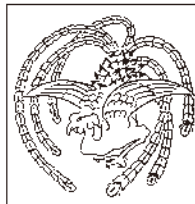
意味を生きる

先の大戦でアウシュビッツ捕虜収容所を体験した心理学者V・E・フランク(一九〇五―一九九七)は収容所体験記「夜と霧」の中で「死を目前にした極限状況の中に在って、多くが人生に絶望し集団自殺を図った。しかし、それでもなお、今命在ることの意味を求めた人々は、戦後まで生き延びることが出来た」と記し、世界から深い共感を得ました。

そこから言えば「むなしくすぐるひとぞなき」という事は、今まで人生の価値とか打ちにこだわっていた在り方が破れ、お与えさまの命という、生きる意味に目覚めた雄叫びの言葉だったのでないでしょうか。

水面を流れる瓢箪のように、あてがわれた我が身の境遇におまかせして、南無阿弥陀仏と尽くすのです。目の前の現実は何一つ変わらないが、大事な人生の生きる意味をいだけ、空しく過ぐるはずのない道を歩むのです。そうして歩める事それこそが、娑婆に出てきた本懐のだとお教え下さっているのです。

(鈴鹿市 深藕寺住職)



仏壇・仏具

ぬし与

ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店

緑と共に75年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士)造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453

ご和讃のお話

中桐 利法

こころは一つにあらねども
雑行雑修これ似たり
浄土の行にあらぬをば
ひとえに雑修となづけしむ
(善導禪師第七首)
『高田勤行聖典一七九頁』

現代語訳

意味するところの心は同じではありませんが、「雑行」と「雑修」は、よく似ています。
眞実浄土への行ではないものを、ひたすら「雑行」と名付けたのであります。

このご和讃は親鸞聖人が、私たちに雑行と雑修の違いについてお示しをくださいました和讃でございます。左訓に、「雑行はよろずの行。雑修は現世をいのり、助業を修するをいふなり。」と説明を頂いております。(左訓とは親鸞聖人が語句の解説を左側に記したものです。)

雑行とは正行(正しい行)に対する言葉であつて、浄土往生を願う行ではない雑多な行のことを言います。お経

さんを読むなどの仏道に關係した行である正行に対する言葉でありまして、浄土往生を願う行ではありません。また浄土往生の助けにしようとして阿弥陀さま以外の諸仏を礼拝したり、その名をとえたり、讃嘆するなどの行をおこなうことを言います。

雑修とは現世利益を願つて南無阿弥陀仏と称えるのであれば、それは雑修です。親鸞聖人は次のご和讃でも雑修と嫌っています。

佛号むねと修すれども
現世をいのる行者をば
これも雑修となずけてぞ
千中無一ときらわゆる

このご和讃は南無阿弥陀仏と称えても現世の利益を祈る人は雑修と名付けて、千人の中に一人も浄土に往生する人はないと嫌われています。親鸞聖人の著書『教行証文類』化身土巻に「それ雑行

雑修その言一つにしてその意これ異なり」と述べておられます。
毎日ありがたいという気持ちで生活する道は「お念

仏」よりほかにありません。信心は自分のはからいや努力で得られる世界ではありません。努力無用、自力無用の世界であります。無用どころかそれをやってはいけない、与えられたお念仏をそのまま頂戴して南無阿弥陀仏と称えただけでよろしいと大変ありがたい世界です。と念仏者、加藤辨三郎は著書で力説しております。このように有り難く頂くようになるには本願を信じ念仏申すことが阿弥陀さまから願いがかけられている身であつたと気付かされます。

(津市 智慧光院衆徒)



京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店 / 京都市下京区烏丸通正面 上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
石匠位認定店
全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式會社

STONES 石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

マイコーヨイシ

三木照國著 教行信証講義

眞仏士

眞仏士文類を本文・延書・大意、語釈・現代語訳・師説にわけ講義 定価7350円税込

藤澤桂珠著

教行信証講讀

第五卷 ― 信文類(末) ―
信文類(末)の信・念・釈論・眞仏弟子釈・弁機彰法・釈義料簡について 定価7350円税込

普賢見壽著

阿弥陀仏の救い

― 人生の帰趨 ―
私の心にといたたい親鸞聖人のおみりについての思いとご法義を讃仰した文集 定価2100円税込

小林浄子著

あなたもわたしもみな兄弟

本願成就文美しい姿・自殺はしないで親と子の絆・お寺とは心と体はひとつです 外 定価1700円税込

無名会同人編

仏と人 45

教団と寺と私と 足利孝之
／ 仏法不思議ということ
源 義春／ 維新の眞宗勤皇
僧 超然 南部松雄／ 時計
の詩 森 正隆／ 正信偈の
このころ(一) 梯 實園／ 恩
の世界 高田慈昭
定価4100円税込

600 / 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
電話 0755-3371-9655
FAX 0755-3371-9655
替 010-2351-4965
010-2351-4965



流罪を宣告せられた親鸞聖人が、流罪先の越後国へ送りとどけられる道中の状況を描いたものです。

越後への流罪

「承元の法難」により親鸞聖人は流罪となり、専修念仏の教えを禁じたものへのおさえることができない怒りを胸に流罪の地、越後の国府に赴かれました。

恩師法然上人との出会いからわずか六年、聖人三十五歳の年（一二〇七年）でありました。

流罪とは死罪に次ぐ重刑であり、うち刑罰の重いものほど遠隔地や離島に流されるのがならわしであったようです。聖人と同じく流罪になった方には、法然上人（土佐国）、浄聞房（備後国）、禅光房（伯耆国）、好覚房（伊豆国）、法本房（佐渡国）、成覚房（阿波国）、善恵房、と記録にみえます。

では、聖人はどのように配所へ赴かれたのでしょうか。

高田本山所蔵の「親鸞聖人伝絵」には越後流罪の場面が描かれています。ここには、聖人が輿に乗せられ護送役の役人に警護されて越後に向かう様子が描かれています。

越後の国府へは逢坂の関を越え、大津から舟で琵琶湖を北上、海津の浦に上陸し、そこから山路を越前に入られ、越前からはおそらく陸路越中に入り、伏木などの港から海路をとり、越後国分寺にほど近い居多ヶ浜に上陸されたと伝えられています。

聖人の流罪地での生活の様子がどのようであったのかについては比叡山での模様同様に、詳しく知るすべはありませんが、流罪にあたって当時の定めに従って僧侶は僧籍を剥奪されて、聖人は藤井善信という俗名を与えられました。しかし聖人は朝廷から押しつけられた俗姓をいさぎよしとせず、自ら「禿」を姓とし、「愚禿親鸞」と名乗られるようになったといわれています。そして聖人自身を非僧非俗と位地づけたいかれたのでした。

『教行証文類』の最後に「真宗興隆の大祖源空法師ならびに門徒数輩、罪科を考へず、猥りがはしく死罪に坐す。あるいは僧儀を改めて姓名を賜うて遠流に処す。予はその一なり。しかればすでに僧にあらず俗にあらず。このゆゑに僧の字をもつて姓とす。空師ならびに弟子等、諸方の辺洲に坐して五年の居所を経たりき。」と聖人はきびしい言葉で記されています。

(教学院第三部会)



ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)



人気商品 高田本山流 精進料理

お問い合わせ・ご注文は 高田本山会館 TEL.059-232-6079



高田本山御用達 三重県仏教会御推薦

石碑
記念
燈籠



高級御影石専門店

御影石材株

(石に御用の方は) 0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前) ☎059-224-1700(代)

これからの本山諸法会

◆讃仏会

九月二十日～二十六日
お彼岸のお参りを讃仏会といえます。仏さまのお徳を讃えて、ご先祖の恩に感謝して、法縁を喜ぶ法会という意味です。

朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、中日の二十三日には法主殿の御親教がごさいます。

◆資堂講法会

十月一日～三日
正式には永代資堂講法会と言います。資堂講は、普く有縁の方々が加入できる講として設けられ、教化の一端も担っています。

◆納骨堂法会

十一月三日・四日
親鸞聖人のお徳を偲ぶとともに、私たちの大切な人も聖人の御廟のそばにおいてあげたいという願いから、本山にご遺骨(分骨)を納める本山納骨の習慣が由来しました。その後、昭和三十八年に個人の納骨壇にご遺骨を納める納骨堂が造られました。
本堂でのお勤めに先立って、法主殿または法嗣殿とともに多くの僧侶が山内を行列で進み、御廟と新納骨堂・第二納骨堂を参拝されます。

◆秋法会

十一月五日～十日
春の千部法会と同じく、進納所で永代経に加入いただいた方をご招待して勤まる法会です。

本山内の賜春館(明治天皇が宿泊された建物)で法主殿のご対顔をあおいだ後、本堂にて参詣します。

これからの本山行事

◆第四十九回檀信徒研修会

十月二十七日 午前九時受付
「く和讃に学ぶく」をテーマに高田派お同行の研修会です。午前中は三重県鈴鹿市随願寺住職松山智光師の法話やビデオ鑑賞、午後は班別の分散会で意見の交換や、質疑応答を行います。参加申込は宗務院教学課にて受付ます。

◆教学院研究発表大会

十月三十日 午前十時開会
高田派の研究機関、教学院の各部会ではそれぞれのテーマを持って研究を行っています。当日はそれぞれの部会からの代表と、応募された一般の僧侶が、二十分の持ち時間で行ってきた研究について発表を行います。また午後には講師を招いて特別講演も行われます。聴講は無料です。

◆第二十九回

坊守婦人会合同研修会

十一月十日・十一日
別院や一般寺院にある婦人会の集まりが高田派婦人連合会です。泊二日での研修会を開き、法式作法や法話、講演を聴聞します。
研修会では初日に小旅行をすることが多く、今年も計画中です。
参加ご希望の方は宗務院教学課へお申し込みください。

清掃奉仕にご参加のみなさま
ご協力ありがとうございます。

- 平成二十一年
- 三月 迎接寺
- 四月 成願寺・西信寺
- 五月 厚源寺
- 六月 玉保院・浄泉寺・明覚寺・三重長寿社会大学
- 七月 法林寺・慈光寺・東海寺・長安寺



職員も草とりのお手伝い

編集後記

一面上段の写真は、鐘楼堂から御影堂のお姿を写しました。
江戸時代の初め、高田派は教団史上未曾有の危機に見舞われます。一つは一身田の大火により当時あった伽藍は焼け落ちてしまいます。その翌年には十五世堯朝上人の殉難であります。江戸幕府より教団に伝わる親鸞聖人に関する法宝物を差し出せという無理難題がつきつけられました。そして上人は、命を賭して高田派に伝わる法宝物を流出させることなくお守りになられました。
その後、お裏方の高松院さまの発願で上人の七回忌に铸造されました梵鐘を先駆けといたしまして、本山は華麗な復興を遂げていきます。いわば本山の姿を見守ってこられた、「証人」と言える梵鐘です。
かくして、御影堂は一六六六年に建立されますが、梵鐘とともに本山の復興を見守り続けてこられた高松院さまは、御影堂の勇姿をご覧になることなぐ、往生の本懐を遂げられました。
今日、鐘楼堂から御影堂を拝しますことは、教団に降りかかった法難の歴史を振り返るとともに、巨大なお念仏の道場として御影堂が造営されるにいたる、当時の人々の仏法に対する尊いお志が伝わってまいります。(F)



「大涅槃図」特別公開
平成二十一年十月八日(木)から十一日(日)
午前九時から午後三時まで
本山 如来堂にて

「大涅槃図」特別公開

寺院名

平成22年5月13日(木)―5月17日(月)

専修寺 御影堂 落慶大法会



御影堂落慶記念品打敷

- 柳葉菩提樹金紋赤地菊桐唐草模様折込
- 記念文字入り

改めて落慶の御志納下されました方へ記念品としてお渡しします。



御影堂落慶法会の記念品として打敷を準備しております。

赤地・地模様入りに柳葉菩提樹金紋、大きさは大(約60cm)小(約43cm)の2種類です。落慶法会の御志納として3千円以上を頂きました方へお渡しいたします。大小合わせて5千枚の限定記念品です。

お問い合わせ 御影堂落成慶讃大法会事務局 電話 059-236-4025 FAX 059-236-4026